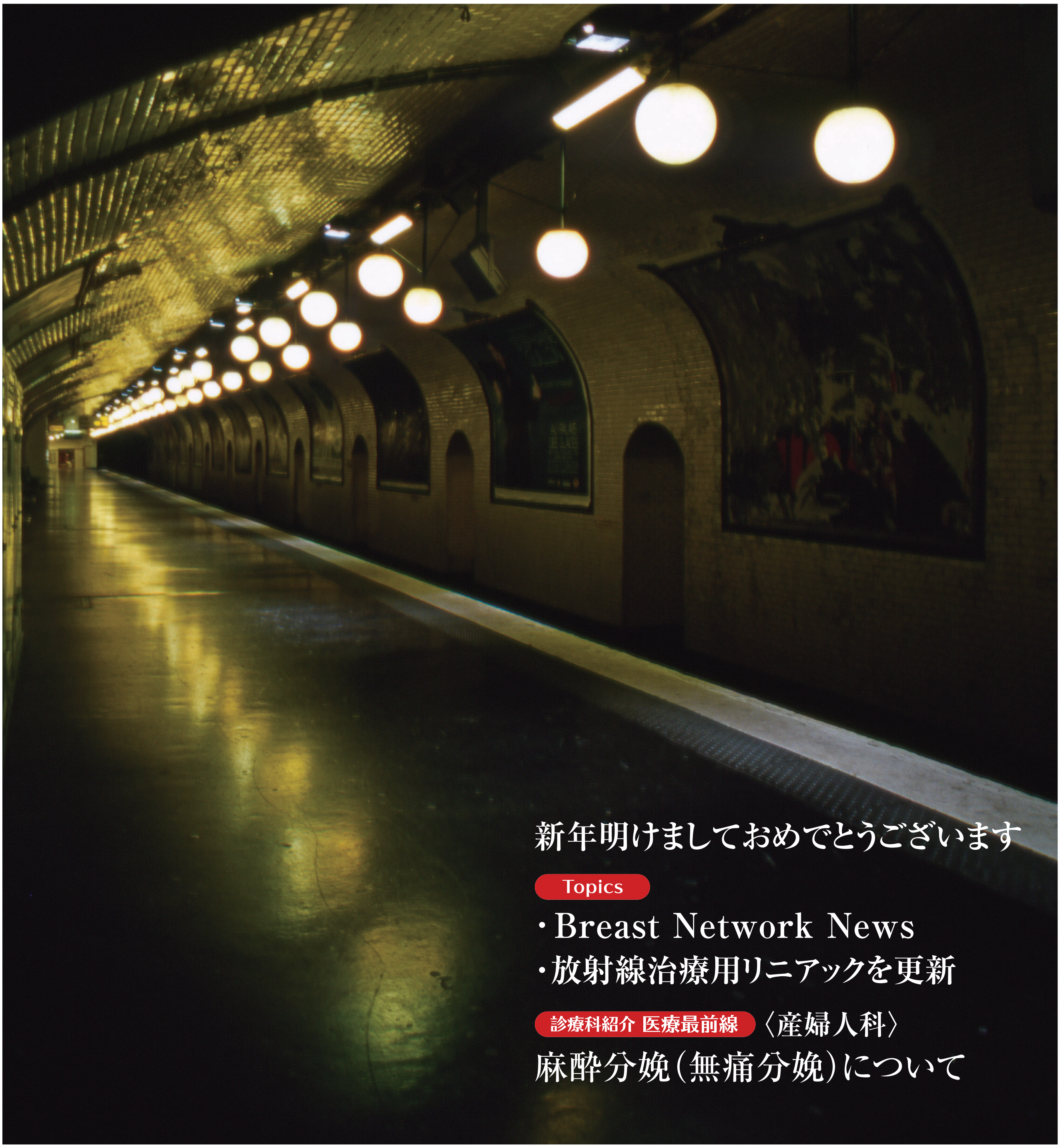
日本赤十字社 Japanese Red Cross Society 大阪赤十字病院
人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

La Confiance
ラ・コンフィアンス

大阪赤十字病院 患者総合支援センターだより

Confiance（コンフィアンス）とは、フランス語で「信頼、信用」を意味します。

vol.50 2026年 冬号



新年明けましておめでとうございます

Topics

・Breast Network News
・放射線治療用リニアックを更新

診療科紹介 医療最前線 〈産婦人科〉
麻酔分娩（無痛分娩）について

Paris

新年明けましておめでとうございます

副院長・患者総合支援センター長 **大西 裕之**

新年明けましておめでとうございます。

先生方には当院の地域医療連携に、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。また、多くの患者さんのご紹介をいただきありがとうございます。

昨今、医療を取り巻く環境は大きな転換期を迎えております。厚生労働省からは2040年に向けた医療供給体制改革の方向性が示され、急性期病院や地域型病院の将来像が具体的に提示されるなど、変革の必要性が強調されています。

当院におきましても、この流れを前向きに捉え、急性期病院としての役割を一層強化してまいります。近年は、HCU・SCUの整備拡張や高度医療機器の更新を進めるとともに、チーム医療の推進と救急医療体制の充実を図っております。これにより、先進的かつ高度な医療の提供と地域の皆さまへのより確かな貢献を実現してまいります。

新しい一年も、より良い医療を届けるべく職員一同努力を重ねてまいりますので、変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

Topics 1 Breast Network News

乳腺外科主任部長 **露木 茂**

乳がん術後連携パスにご協力いただき誠にありがとうございます。
日々の診療にお役に立てるように、定期的に乳腺疾患についての情報発信を行ってまいります。

●外来が2診制に変わりました

	月		火		水	木		金
午前	露木	仙田	岡田	康	仙田	露木	岡田	康
午後	露木		岡田		仙田			康

初診患者さんは毎日受け付けています。

患者さんの待ち時間短縮と、診察時間の確保のために、**月、火、木曜日が上記のとおり、2診制になりました。**引き続き、患者さんに寄りそう診療を心がけていきますので、よろしくお願いいたします。

うえまち乳腺連携会のご案内

毎年、紹介医、登録医の先生方への当科の乳腺診療の情報共有のために行っています。今回は、京都大学乳腺外科教授の増田 慎三先生にご講演いただきます。ぜひ、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

開催日時 2026年1月31日(土) 16:00～17:10

開催場所 あべのハルカス25階 会議室D

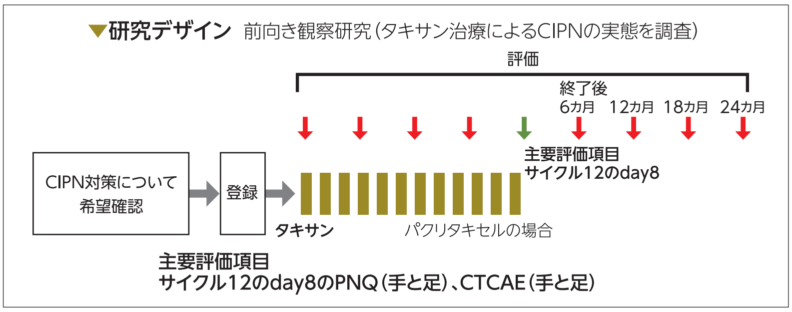
講　　演 ①「当院におけるHER2低発現乳癌の治療実績」
大阪赤十字病院 乳腺外科　康 裕紀子先生

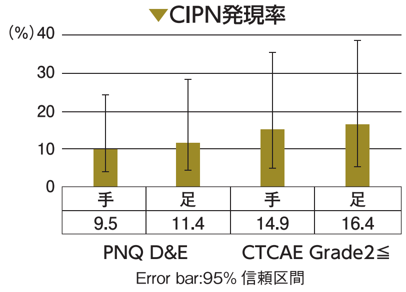
②「一人ひとりに最適な乳癌診療のすすめ」
京都大学乳腺外科 教授　増田 慎三先生

※お問い合わせは、当科または第一三共株式会社MRまで

●臨床研究「化学療法起因性末梢神経障害予防としての圧迫療法」の結果の報告

当科と京都大学乳腺外科の関連施設において実施している、抗がん剤による末梢神経障害(CIPN)予防のための弾性グローブおよびストッキング(ECGS)の有効性を検証する臨床試験の結果の第1報を、第63回日本癌治療学会学術集会に発表しました。





対照群：既知の報告：
PNQ D&E：15～41.7%、CTACAE Grade2以上：24～67%

本試験の主要評価項目であるCIPN発現率の結果を報告しました。

ECGSは既知の報告に比較して、**CIPN発現率をPNQ D&E(日常生活に支障あり)は約10%、CTCAE Grade2(中等度)以上は約15%に低下させ、**手のみならず、足のCIPN予防の有効性が示されました。

診療科紹介 **医療最前線** 〈産婦人科〉

麻酔分娩（無痛分娩）について

当院では「安全に、かつ落ち着いてお産に臨める程度に痛みを和らげる」ことを目標に、麻酔分娩を用いています。
今号では当院での麻酔分娩について紹介します。

Profile

産婦人科部長
岩見 州一郎

2002年東京医科大学卒業後、京都大学婦人科学産科学教室に入局。複数の関連病院勤務を経て、2020年京都桂病院部長、2023年大阪赤十字病院副部長、2024年より現職を務める。国立病院機構大阪医療センター勤務時に、島岡 昌幸先生（現、島岡医院院長）から山田 成利先生（現、越田クリニック院長）に伝承された産科医の行う硬膜外麻酔分娩を学び、その技術を京都桂病院・当院へ導入した。

① 麻酔分娩とは

分娩時の痛みは、無麻酔での手指切断に匹敵するとの報告もあり、決して軽視できるものではありません。近年、世界的に「麻酔分娩」を選択する方が増加している背景には、この痛みを軽減し、安心して出産に臨めるようにする目的があります。

一般には「無痛分娩」と呼ばれますが、当院ではあえて「麻酔分娩」という名称を用いています。無痛分娩と称さない理由は、完全に痛みを取り除くのではなく、痛みを緩和するという立場を明確にするためです。過度に痛みを取ってしまうと、妊婦自身が子宮の収縮を感じづらくなることや、いきみづらくなることがあります。あくまで分娩の基本は妊婦自身の力であり、医療はそのサポートと考えています。そのため、私たちは「安全に、かつ落ち着いてお産に臨める程度に痛みを和らげる」ことを目標にしています。

② 当院での方法

当院の麻酔分娩は、硬膜外麻酔を基本としています。陣痛が強まれば硬膜外カテーテルから麻酔を開始します。また、当院ではカテーテルから麻酔を必要量手動で注入するボーラス投与を行っています。鎮痛効果が薄まれば再度ボーラス投与、を繰り返します。急速な鎮痛が必要な場合には、脊髄くも膜下麻酔を併用することもあります。

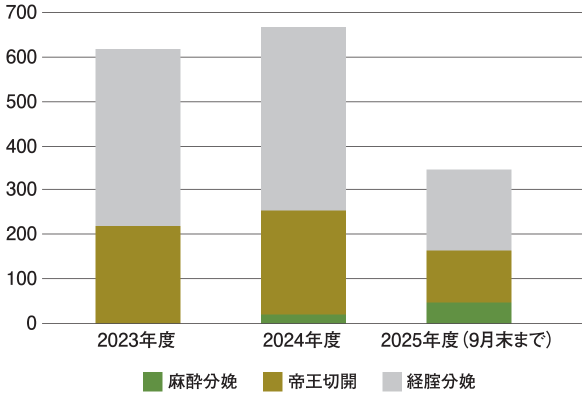
原則として計画分娩で行い、陣痛促進剤の使用を組み合わせます。適応には制限があり、凝固異常や早産、胎児発育遅延や胎児心拍異常がある場合は実施できません。

一般的には持続投与（麻酔薬を一定量持続し注入する方法）や定期投与（痛みとは関係なく一定時間ごとに一定量の麻酔薬が注入される方法）が行われることが多いです。当院でのボーラス投与は総麻酔投与量が持続投与や定期投与と比較し少なく、安全性が非常に高いのが特徴です。

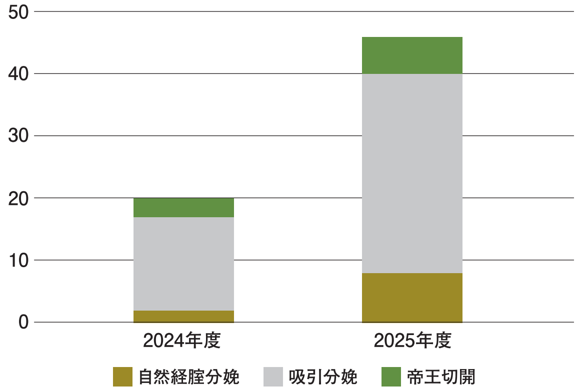
③ 成績

当院では2024年に麻酔分娩を導入して以降、麻酔分娩を希望される方は2024年度27例（経腟分娩予定例の6%）、2025年度9月までで49例（経腟分娩予定例の21%）と年々増加しています。麻酔分娩での帝王切開率14%、吸引分娩率82%であり、非麻酔分娩での帝王切開率20%、吸引分娩率21%と比較し、帝王切開率は増加していません。吸引分娩の増加は、スムーズな麻酔分娩進行のためのサポート的位置づけによるものです。胎児心拍異常による吸引分娩の増加ではありません。局所麻酔中毒や全脊椎麻酔へ移行した症例は一例もありません。

▼当院の分娩件数



▼当院の麻酔分娩数



④ 今後の展望

さらに満足度の高い麻酔分娩を目指して、体制を整えていきます。より多くの方に「安心して出産に臨める環境」を提供できるよう、取り組みを進めてまいります。

Topics 2

放射線治療科

リニアックを更新し多発性脳転移や脊椎転移に対する定位照射ができるようになりました

**放射線治療用リニアックをバリアン社のTrueBeamに更新いたしました。
新たに6軸治療寝台が導入されたことにより、
多発性脳転移や脊椎転移に対する定位照射ができるようになりました。**

HyperArc

近年分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤などの新しい治療法が開発され、手術や放射線治療が進歩するなどした結果、がん患者さんの生存期間が改善されました。これに伴い転移性脳腫瘍が増加しています。単発の場合は手術やガンマナイフによる定位手術的照射が行われてきましたが、多発性脳転移の場合、多くは全脳照射が行われ晩期反応による認知機能低下が問題となっていました。多発性脳転移に1個ずつガンマナイフやリニアックによる定位照射も行われていましたが、時間がかかるのが欠点でした。今回導入されたハイパーアークは、多発性脳転移に対してIMRTを使って複数個の転移に同時に治療を行うことができます。これにより短時間に治療を終わらせることで患者さんの負担を減らし、また正常組織への線量を低減することで晩発反応を減らすことができる優れたシステムです。

脊椎定位照射

脊椎転移があった場合、転移数5個以内のオリゴ転移と原発巣に定位照射を行う場合や、過去に疼痛緩和目的の照射を行ったが疼痛が再燃あるいは残存した場合の再照射において、定位照射が行われる場合があります。脊髄を避けて転移巣に線量集中できるため、晩期反応を抑えながら疼痛緩和を得ることができます。

新しい機能を使って、より少ない晩発障害でより高い局所制御率や疼痛緩和を得られる定位照射を推進し、
患者さんに安心して放射線治療を受けていただけるようにしていきたいと考えています。
照射適応患者さんがおられましたら気軽にご相談ください。

「WEB予約」のご案内

Topics 1

★小児科・血液内科が追加！

➡ 産婦人科（産科のみ）、精神神経科を除く
診療科・検査でご利用いただけます。

Topics 2

★日程調整を患者さんにお任せできる機能を追加！

➡ 紹介元医療機関様では診療枠の選択、最低限の患者情報を入力。SMS（ショートメッセージ）で患者さんにバトンタッチし、患者さんが日時選択と患者情報入力を行います。
紹介元医療機関様のご負担を最小限に（従来どおり、紹介元医療機関様にて最後まで予約取得も可能です）。

■WEB予約は登録医限定のサービスです。
登録医のお申し込み・ご利用方法などについては、
医療連携・入退院支援課へお問い合わせください。

人事異動紹介

2025年10月2日
～2026年1月1日

新任

- 2025年11月1日【救急科】石村 圭位（医師）
  12月1日【小児外科】高松 由布子（医長）
- 2026年 1月1日【産婦人科】岡田 由貴子（院内部長）
  【腎臓内科】辻畑 智雄（専攻医）
  【小児科】山道 克樹（専攻医）

退職

- 2025年11月30日【眼科】松山 浩子（副部長）

※人事異動の内容は現時点のものです。今後変更になる可能性があります。
最新情報は、下記二次元バーコードから当院ホームページでご確認いただけます。

発行
大阪赤十字病院　医療連携・入退院支援課
大阪市天王寺区筆ケ崎町5−30
https://www.osaka-med.jrc.or.jp

2026年1月発行

■医療連携・入退院支援課のご案内
受付時間／平日8:30～20:00、土曜8:30～13:00
休 診 日／日曜・祝日、12月29日～1月3日（年末年始）、5月1日（本社創立記念日）
連 絡 先／（直通） **TEL:06−6774−5127**
FAX:06−6774−5126